

学び変え続ける！！

最上位目標 豊小フライド「自立 創造 共生」

◇めざす児童像＝子どもに付けたい力

自立＝自分から行動する力 創造＝自分から創り出す力 共生＝自分からつながる

1 学校全体としての道徳教育の目標 [学習指導要領第1章総則]

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

→ ※児童の道徳性を養うという趣旨が明確になった。

2 道徳教育の要である道徳科の目標 [学習指導要領第3章特別の教科道徳]

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

→ ※育成すべき資質・能力が明確となった。

3 内容 (※内容項目に応じたキーワード([])が示された)

A 主として自分自身に関すること

[善悪の判断、自律、自由と責任] [正直、誠実] [節度、節制] [個性の伸長] [希望と勇気、努力と強い意志] [真理の探究]

B 主として人との関わりに関すること

[親切、思いやり] [感謝] [礼儀] [友情、信頼] [相互理解、寛容]

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[規則の尊重] [公正、公平、社会正義] [勤労、公共の精神] [家族愛、家庭生活の充実] [よりよい学校生活、集団生活の充実] [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] [国際理解、国際親善]

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

[生命の尊さ] [自然愛護] [感動、畏敬の念] [よりよく生きる喜び]

→ ※下線はいじめ問題への対応から内容項目の前半に位置付けられた。太字は中学校までの指導の系統性やいじめ問題への対応の観点から新たに追記された。

4 考える道徳授業の創造

「道徳の時間」

読み物資料の心情理解を中心とした授業

- 気持ちの変化を捉える
- 人物の気持ちに共感させる

読み物道徳

望ましいと思われること、決まり切ったことを言わせたり、書かせたりする

- 何が大切か
- どうすることが望ましいのか

押しつけがちな道徳

「特別の教科道徳」

自分との関わりで道徳的価値を考える授業

- 自分自身を見つめる
- 人物に共感し自分との関わりで気持ちを想像する

考える道徳

自分との関わりで多面的、多角的に考える授業

- どのようなわけで大切なのか
- どうすることが考えられるか

考える道徳

5 「考え、議論する道徳」とは

- 「道徳科」・・・**答えが一つではない道徳的な課題**を一人一人の児童が**自分自身の問題**と捉え、向き合う学習
- 「考え、議論する」とは、児童一人一人が主体的に**自分との関わりで考え、自分の考え方、感じ方を明確にし、多様な考え方、感じ方と出会い交流する** ⇨ **対話的な学び**
この「対話的な学び」を通して、自分の考え方や感じ方をさらに明確にし、深い考えとなっていく学び
- 「考え、議論する道徳」は、まさに「主体的・対話的で深い学び」の視点からの**授業革新**となる！

6 「考え、議論する道徳」の授業実践

- ねらいや指導内容を明確にする＝道徳的価値を明確にする
- ねらいや指導内容等に関わる児童の学習状況や実態、教師の願いを明確にする＝児童の実態把握
- 教材の具体的な活用方法を明確にする＝教材活用の仕方

7 学校教育における「道徳性」

- 道徳的判断力**
それぞれの場面で善悪を判断する力
- 道徳的心情**
道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
- 道徳的実践意欲**
道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き
- 道徳的態度**
道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え